

1 本事業がめざすもの

1-1 背景

1-1-1 本市をとりまく状況

- 本市は平成 15 年に旧静岡市と旧清水市との合併によって誕生しました。平成 17 年に政令指定都市に移行し、その後平成 18 年に旧蒲原町、平成 20 年に旧由比町と合併し、現在に至っています。
- 本市は南アルプスから駿河湾に至る広大なエリアと、多様な自然や地域資源を活かした多彩な産業と、温暖な気候に恵まれ太古から脈々と営まれてきた歴史・文化を有しています。また、我が国のほぼ中央部に位置しており、交流・物流・産業の拠点としても、大きな役割を担っています。
- 近年全国的に、少子高齢化、核家族化とともに地域コミュニティの機能低下による、子育てに対する負担感の増大や社会関係の希薄化などの、子どもたちを取り巻く環境の変化が指摘されています。同時に、子どもたちの「生きる力」、「コミュニケーション力」の弱さについても、学校教育をはじめとしたさまざまな場面で課題として取り上げられています。本市においても、こうした環境の変化が見られるところです。
- 一方、産業界に目を転じてみると、世界では経済のグローバル化が進み、都市間競争の激化、産業構造の転換などによる地域経済の疲弊や、中心市街地の空洞化の兆しも見られます。こうしたなか、人と人との活発な交流を生み出し、新たな産業づくりや、将来の産業を支える人づくりに対するニーズが高まっています。
- 本計画は、このような背景を受け「未来への投資」として、次世代育成のための施設づくりを行うべく、平成 22 年 3 月に策定した「(仮称)こどもクリエイティブブランド 基本構想」に基づき、その具体化に向けて事業の基本的なあり方をとりまとめるものです。
- 検討にあたっては、従来のハード優先型施設ではなくソフト展開を中心とすること、市民ワークショップや各種アンケートなどを通じて市民の幅広い意見を取り入れることに努めました。

1-1-2 社会的な状況

(1)子ども関連施設（類似施設）の傾向

- 日本における子ども関連の公共施設には、①児童館、②子育て支援施設、③チルドレンズミュージアム、④こども科学館（青少年科学館）などがあります。いずれの類型においても、子どもたちの主体的な活動を支える施設づくりをめざしているところが多く、アメリカのチルドレンズミュージアムの参加体験型展示をとり入れたり、ワークショップなどの体験プログラムを実施しています。
- 近年は、子ども施設に対して、地域活性化や市民の交流などのように、地域のコミュニティの核としての機能を求める傾向が見られます。たとえば豊橋こども未来館では、子どもたちの育成とともに、地元商店街をはじめとした市街地活性化をめざした施設づく

りを行っています。

- また民間施設でも、キッザニア、ポーネルンドのキドキドなどの大型施設が開設されています。特に仕事体験ができるキッザニアは、平成 18 年（2006 年）のキッザニア東京開館以来、人気を集めています。キッザニアは出資企業による本物に近い作りこんだ環境のなかでの仕事体験プログラムを提供しており、企業マーケティングの機能を併せ持つ、仕事をテーマとしたテーマパークとして捉えることができます。

[日本における子ども関連の公共施設の類型]

①児童館	<ul style="list-style-type: none">・児童福祉法第 40 条が規定する児童厚生施設の 1 つ。・地域の子どもたちに健全な遊びを提供し、子どもの健康を増進するとともに、情操を豊かにすることを目的とする。・施設の規模や形態はさまざま。・子どもたちが自由に創作活動を行える造形や絵画のプログラム、アーティストとのコラボレーションによる体験型展示とワークショップの開催など、近年、芸術的な面を強化した活動も数多く行われている。 （例）愛知県児童総合センター／大阪府ビッグバン／神戸市こべっランド など
②子育て支援施設	<ul style="list-style-type: none">・乳幼児とその保護者を主な対象とする。・乳幼児が保護者と安全に安心して遊べるよう、遊具や遊び場を整備している。・読みきかせなどのワークショップなども実施され、チルドレンズミュージアム的な活動も見られる。・子育てを行う保護者を支援するという目的もある。 （例）北九州市ふれあい交流プラザ／浜松こども館／武蔵野市 O123 施設 など
③チルドレンズミュージアム	<ul style="list-style-type: none">・19 世紀末にアメリカで始まった子どものための博物館で、子どもたちが地域で安全に、安心して遊び、学べる場所をつくることからスタート。・科学や社会、美術などをテーマにしたハンズオン（＝参加体験型）展示、体験プログラムを提供する。・日本では、チルドレンズミュージアムの考え方を取り入れ昭和 60 年に青山子どもの城が開館、その後、平成 6 年に霊山こどもの村・遊びと学びのミュージアム、平成 9 年にキッズプラザ大阪が開館するなど、各地で開設される。 （例）霊山こどもの村遊びと学びのミュージアム／沖縄こどもの国ワンダーミュージアム／篠山チルドレンズミュージアム など
④こども科学館（青少年科学館）	<ul style="list-style-type: none">・子ども向けに自然科学に関連する展示を行う博物館。ハンズオン展示や、ワークショップなどの体験プログラムなどを取り入れた例が多い。・①の大型児童館のなかには、こども科学館的な展示アイテムを取り入れたところもある。 （例）札幌青少年科学館／横浜こども科学館／静岡科学館る・く・る など

(2)ミニ・ミュンヘン型「子どものまち」

- 一方、子どもたちの主体的な参加によってつくられる、手づくりの「子どものまち」のイベントが盛んに行われています。これらは、昭和 53 年のドイツで始まった「ミニ・ミュンヘン」の考え方やしぐみを取り入れたものです。日本では、平成 9 年に「ミニ香北町」が高知県香北町のアンパンマンミュージアムの開館一周年事業として開催されたのをはじめとして、平成 14 年に千葉県佐倉市で「ミニ・佐倉」が、平成 18 年に札幌市の「ミニ・さっぽろ」が、平成 20 年には大阪市で「ミニ・大阪」、平成 22 年にはさいたま市で「ミニ・さいたま」が開催されるなど、全国各地で、「子どものまち」イベントが開催されています。
- 「子どものまち」では、子どもたちが市民となって自らさまざまな仕事を体験し、そこで得た給料で買物をしたり、ゲームに参加したり、お菓子を買ったり、いろいろな遊びを体験することができます。自分たちで考え、行動し、試行錯誤を繰り返すなかで、仕事を成し遂げたときの達成感や、異年齢の子どもたちの交流、共同作業の楽しさなどを得られる体験の場、子どもたちの社会体験の場として、その効果が注目されています。こうしたイベントの人気の背景には、ハードに頼らない、体験プログラムなどのソフト・コンテンツを重視する傾向も読み取れます。
- また、これらの大半が、NPO 等をはじめとした地域の有志による活動から始まり、イベントの運営もボランティアなどによる点が注目されます。その背景として、地域全体で子どもたちを育むという気運の高まりとともに、子どもたちの生きる力を育てること、キャリア教育などへのニーズがあると考えられます。

(3)キャリア教育に対する期待とニーズ

- キャリア教育という言葉がはじめて使われたのは、平成 11 年の中央教育審議会答申です。この答申では、「学校と社会および学校間の円滑な接続を図るためのキャリア教育（望ましい職業観・勤労観・および職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・体力を育てる教育）を小学校段階から発達段階にに応じて実施する必要がある」と述べられています。
(参考資料：中央教育審議会『初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）』平成 11 年)
- その後、中学校における職場体験学習に続き、平成 16 年には小中高校でキャリア教育が開始されるようになりました。文部科学省の『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』（平成 16 年 6 月）では、キャリア教育とキャリアを以下のよう

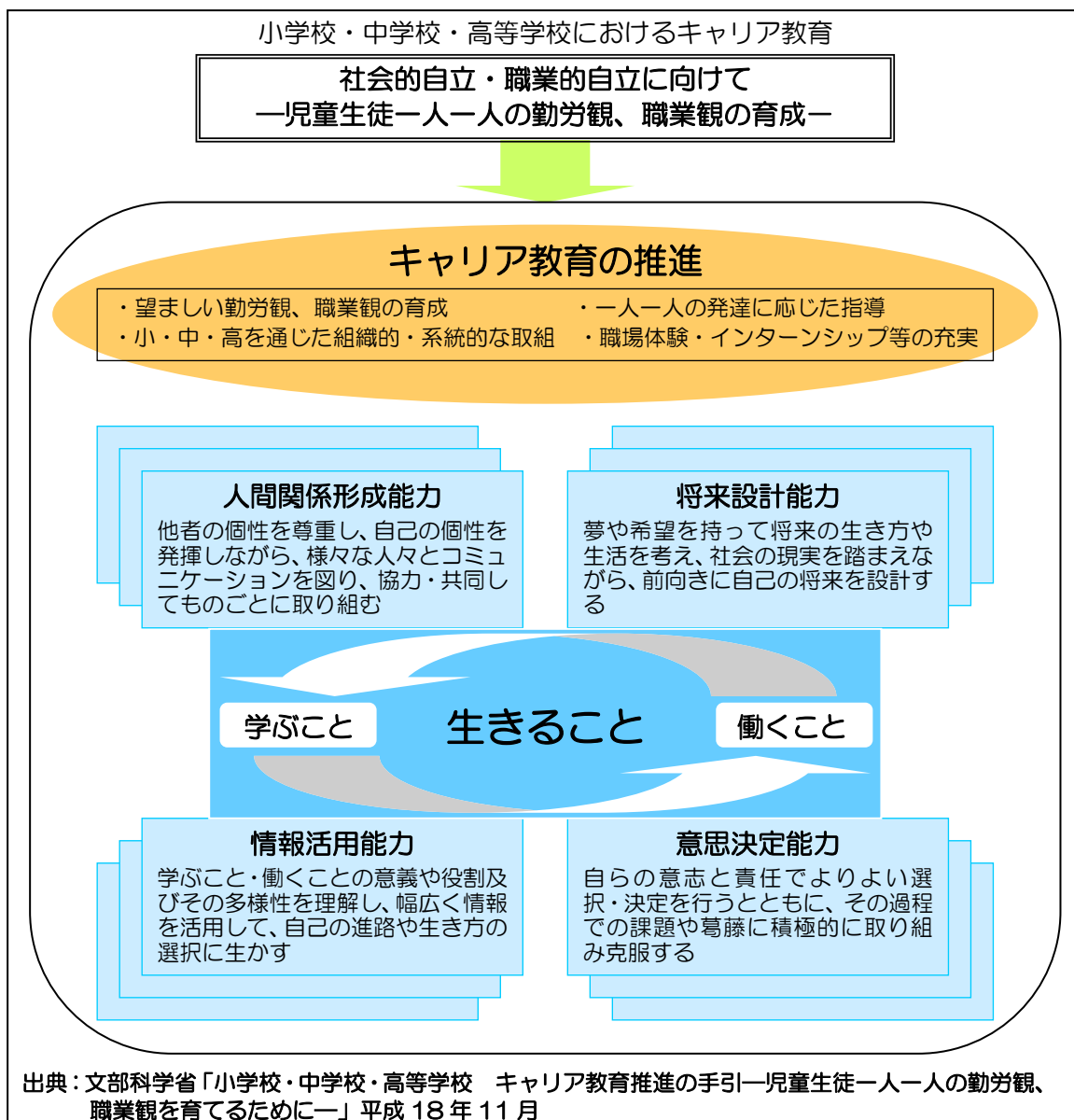
キャリア：「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの類型」

「個人が職業生活、家庭生活、市民生活等の全生活の中で経験する様々な立場や役割を遂行する活動」

キャリア教育：「キャリア概念に基づいて、児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」
「端的に言えば、児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」

- 文部科学省『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引—児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために—』では、キャリア教育の観点から、地域とのかかわりにおいて行われるべき活動として、小学校段階では社会体験やものづくり・生産活動、中学校段階では勤労生産的活動が挙げられています。

[小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引]

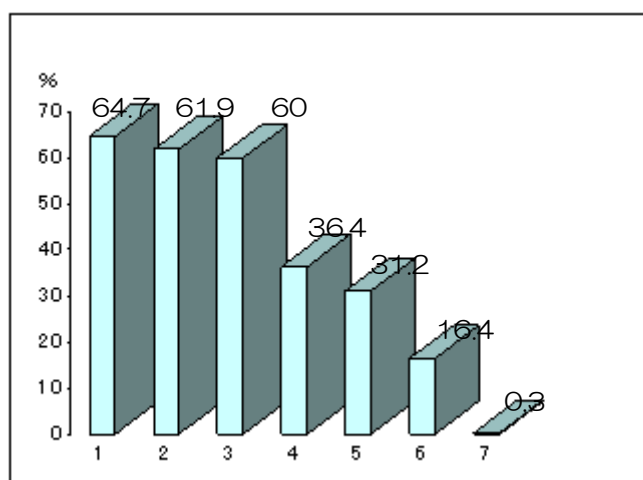


- 保護者においても、職業体験やキャリア教育へのニーズの高まりが見られます。たとえば、平成 22 年に行われた子育てで支出に関する調査（博報堂買物研究所『「子育ての買物」レポート』平成 22 年 4 月 5 日）では、「子育てのために今後買いたいと思う商品やサービス」を問う質問に対して、「自分は将来どんなことをやってみたいか考えさせられる職業体験ができるもの」と回答した人は、64.7%（複数回答）と、第一位を占めています。

[職業体験へのニーズ]

Q 子どもの成長や才能を伸ばすために、今後、以下の商品・サービスは欲しいと思いますか？(N=365 複数回答)

- 1：自分は将来どんなことをやってみたいか考えさせられる職業体験ができるもの
- 2：昔ながらの日本の生活から礼儀、作法、秩序、風習などを学ぶもの
- 3：世の中には多種多様な考えを持っていたり、自分とは違う生活をしている人がいることを学べるもの
- 4：世界の水準と比較して、日本に住んでいる今の自分の生活が恵まれていることを気づくことができるもの
- 5：英語の習得を前提として、第二外国語（中国語など）を学び多彩な外国人とコミュニケーションをとることが学べるもの
- 6：将来必要な知識と考えられる投資などでお金を増やす方法が学べるもの



出典：博報堂買物研究所
『「子育ての買物」レポート』
平成22年4月5日

1-2 設置目的

- 本市をとりまく状況、社会的な状況をふまえ、静岡市こどもクリエイティブタウンの設置目的を、次のように設定します。

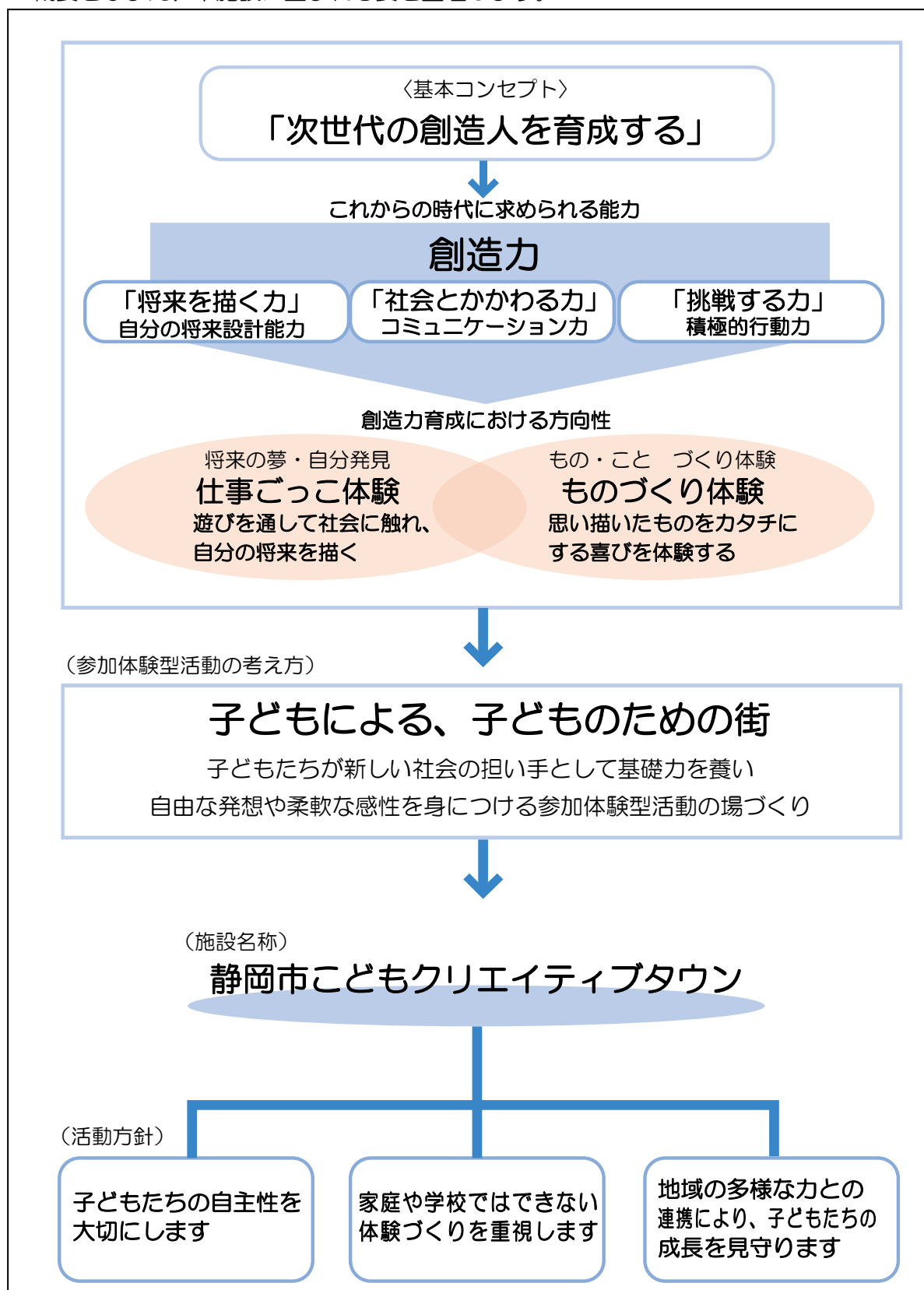
設置目的：次世代の創造人の育成

- 変化の激しいこれからの社会に生きる子どもたちに求められる力を、
将来を描く力＝自分の将来設計能力
社会とかかわる力＝コミュニケーション力
挑戦する力＝積極的行動力
からなる「創造力」であると捉え、その育成をめざします。
- 地域の多様な資源や、市民一人一人が有する多彩な能力や経験を活かすことにより、地域とともに、地域で子どもたちの創造力育成に取り組めます。
- 本市の未来を担う子どもたちの育成をめざすと同時に、活動を通じて、世代間交流の促進・人づくり・地域づくりを進めます。

1-3 本事業の方向性

1-3-1 基本構想を踏まえた方向性

- はじめに、平成 22 年 3 月に策定した（仮称）こどもクリエイティブブランド基本構想の概要をふまえ、本施設に望まれる姿を整理します。



1-3-2 活動コンセプト

子どもによる、子どものための街

- これからの時代に求められる能力として、「将来を描く力」、「社会とかかわる力」、「挑戦する力」を取り上げ、これらを総称して、「創造力」とします。
- 遊びを通して社会に触れ自分の将来を描く「仕事ごっこ体験」、思い描いたものをカタチにする喜びを体験する「ものづくり体験」を創造力育成における方向性として位置づけます。
- 子どもたちが新しい社会の担い手として基礎力を養い、自由な発想や柔軟な感性を身につける参加体験型活動の場とは、言い換えれば、子どもたちが主体的に、創意工夫して、様々なモノや関係を作り上げていく場です。それは、まさに「街」をつくっていく社会的な営みそのものです。
- そこで、参加体験型活動のコンセプトを「子どもによる、子どものための街」とし、街＝タウンとして、コンセプトを体現する施設名称を「こどもクリエイティブタウン」とします。（以下、本計画において、「こどもクリエイティブタウン」の名称を使用します。）

1-3-3 方針

1 子どもたちの自主性を大切にします

- 子どもたち自身が考え、行動できる場とします。（大人の関与を限定的範囲にとどめます。）
- 思い描いたことをやりとげる喜び、達成感が得られるように配慮します。
- 新しいことに挑戦することを楽しめる力を養います。

2 家庭や学校ではできない体験づくりを重視します

- 多様な価値観・能力を持つ人びとや、多世代、異年齢の人びととの交流のなかで、認めあい、刺激しあい、高めあえるような体験の機会をつくります。
- 共同作業を通じて子どもたちのコミュニケーション力を養います。

3 地域の多様な力との連携により、子どもたちの成長を見守ります

- 子どもたちの創造力を地域の創造力ととらえ、地域全体で子どもたちの成長を育むしくみをつくります。
- 地域の多彩な資源（人・モノ・技術など）を最大限に活用し、地域のよさを子どもたちが理解し、郷土への誇りと愛着を養えるよう配慮します。

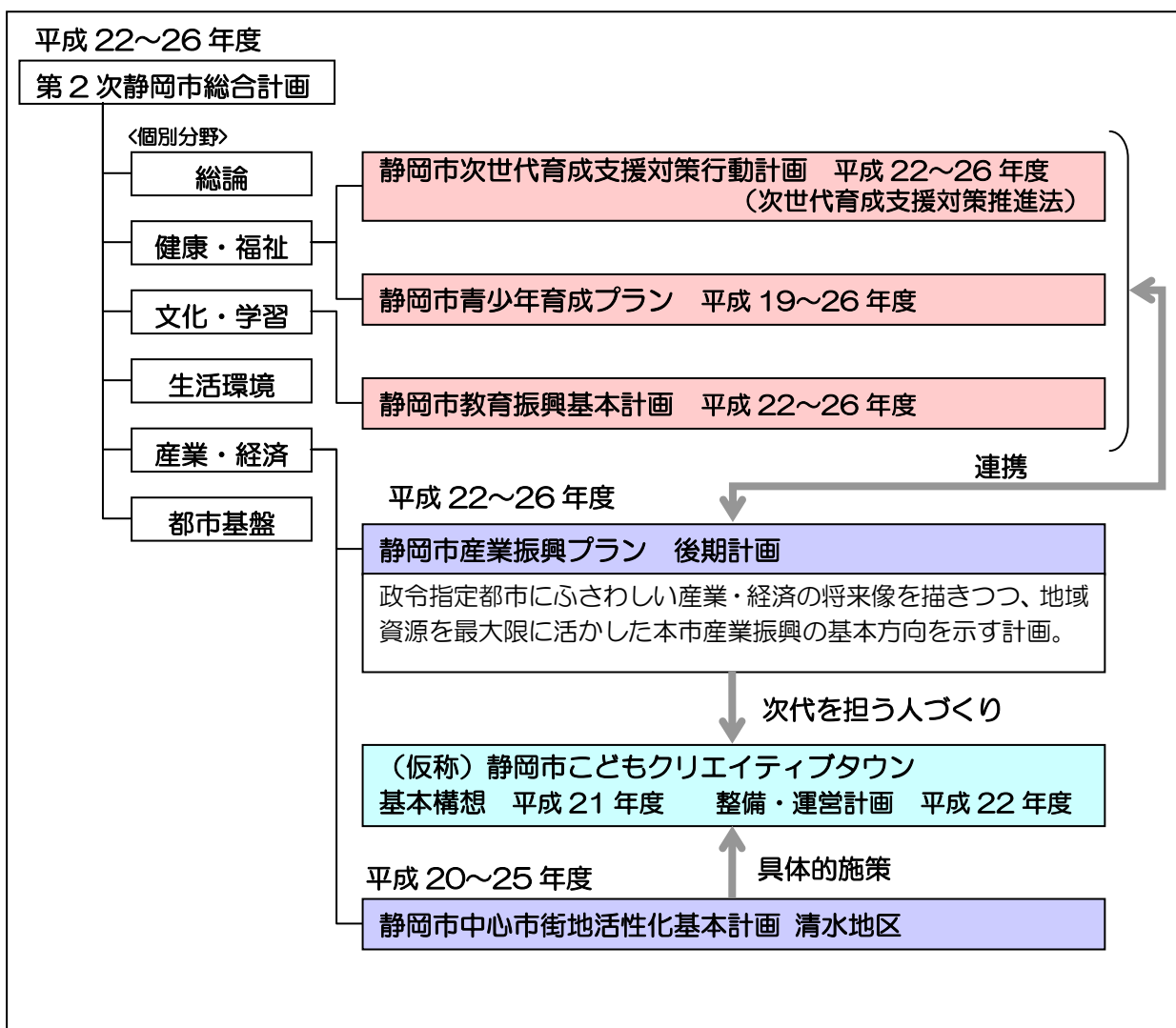
1-4 ニーズ分析

- 本項では、はじめに各種法令や関連計画等をふまえた本計画の位置づけを明らかにするとともに、アンケートや各種統計、市民ワークショップや調査などから見えてくる市民ニーズを整理します。
- あわせて、本施設に望まれることから本施設への活かし方を整理します。

1-4-1 各種法令、関連計画等による位置づけ

- 本計画は、『静岡市産業振興プラン』（平成 22～26 年度）などの関連計画に、下図のとおり、位置づけられています。

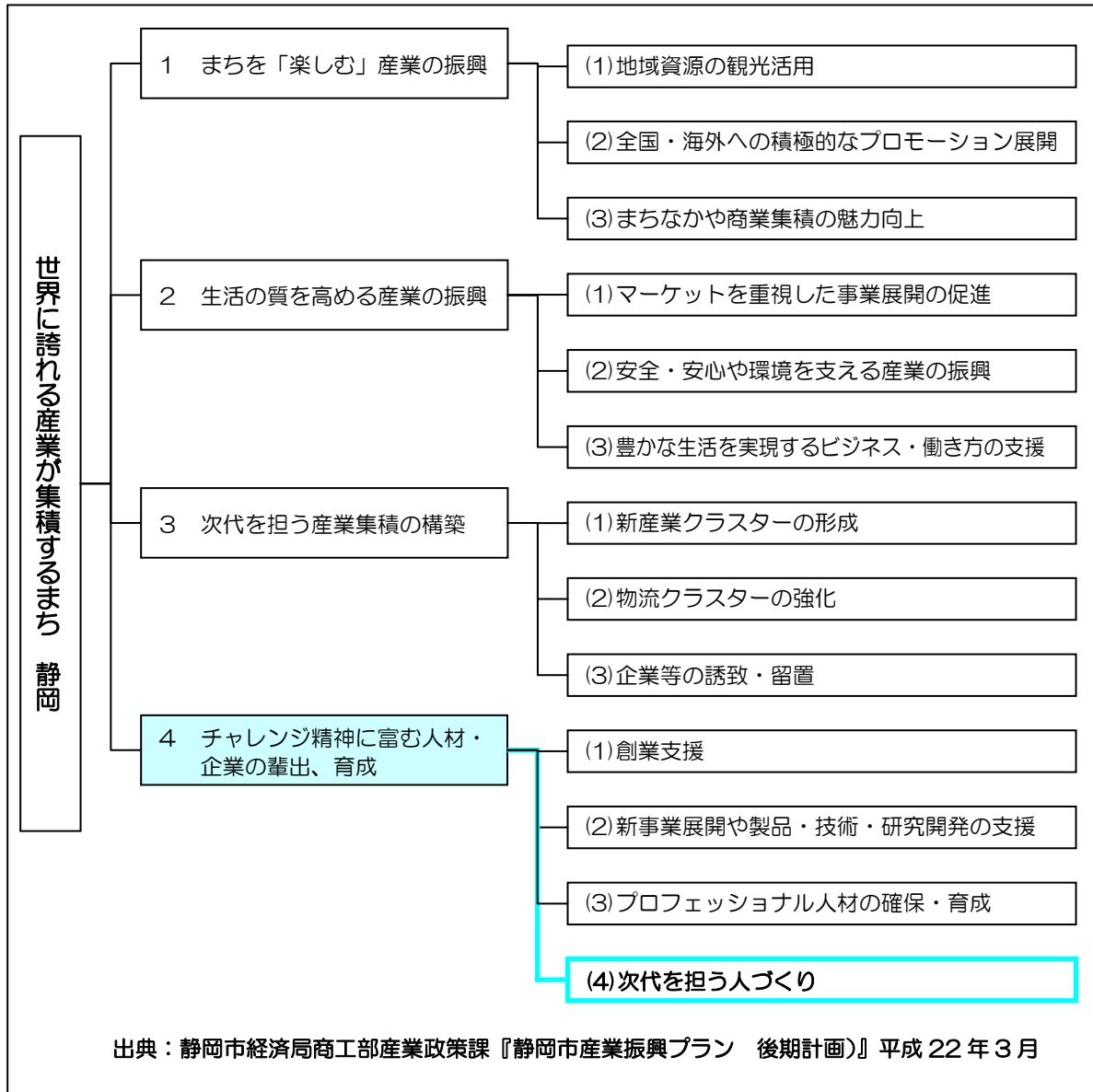
[本計画の位置づけ]



(1) 静岡市産業振興プラン 後期計画

- 『静岡市産業振興プラン 後期計画』では、将来の本市産業を背負って立つ若者が、創造力、行動力、課題発見力など、社会人に求められる能力を高めていくことを推進します。

〔静岡市産業振興プラン 後期計画〕



(2) 静岡市中心市街地活性化基本計画 清水地区

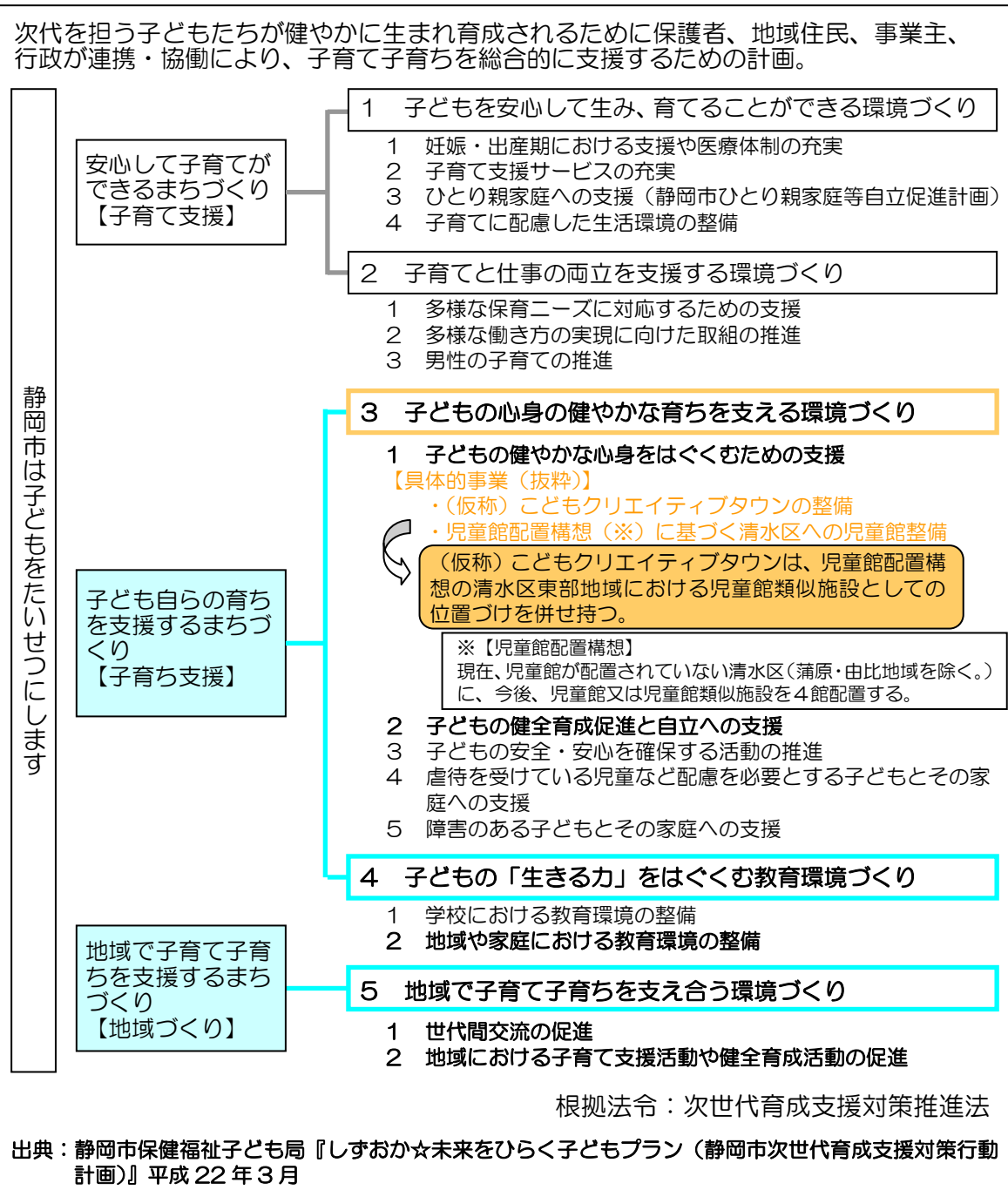
- 『静岡市中心市街地活性化基本計画 清水地区』は、清水地区中心市街地（約 140ha）において、高齢者を含めた多くの人にとって暮らしやすく、環境負荷が少ないコンパクトでにぎわいあふれるまちづくりを目指し、ハード、ソフト両面の事業を総合的かつ集中的に実施するための実行計画です。

本施設は、当該地区内に立地し、多数の利用者が集まる施設であることから、中心市街地の活性化にも寄与するものとします。

(3) 静岡市次世代育成支援対策行動計画

- 『しずおか☆未来をひらく子どもプラン～静岡市次世代育成支援対策行動計画』（子どもプラン後期計画）では、子ども自らの育ちを支援するまちづくり（子育て支援）や、地域で子育て子育てを支援するまちづくり（地域づくり）をめざしています。

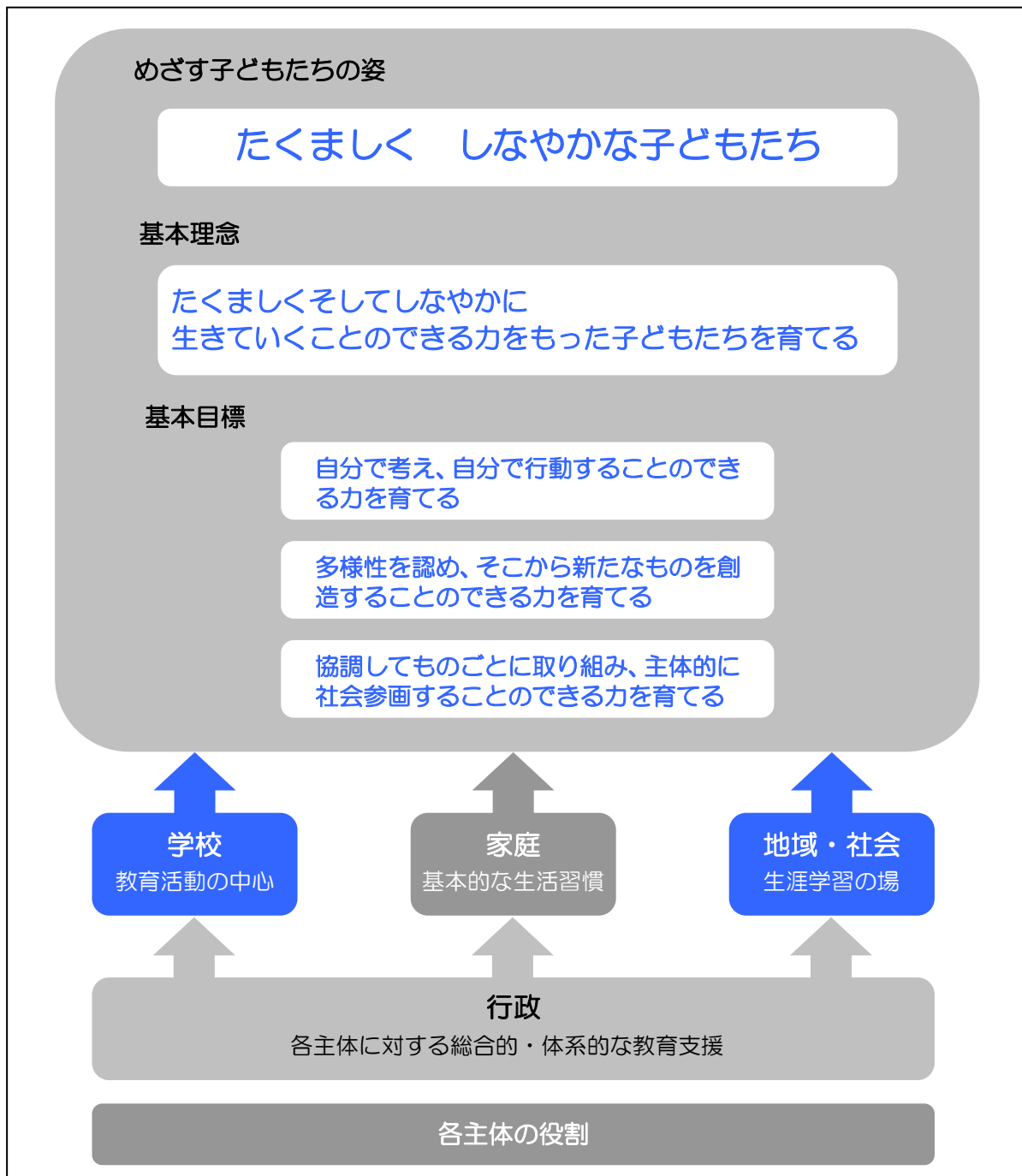
【しずおか☆未来をひらく子どもプラン～静岡市次世代育成支援対策行動計画】



(4) 静岡市教育振興基本計画

- 『静岡市教育振興基本計画』では、自ら考え行動する力、多様性を認めた上で新たなものを創造する力、協調的・主体的に社会参画する力の育成を基本目標としています。同計画ではその施策として、「放課後・休日における体験・交流活動等の場づくり」を掲げています。

[静岡市教育振興基本計画]



施策の方向性	大施策	中施策
1 知・徳・体の バランスのとれた 子どもたちを 育てる	①確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●「わかる授業」の推進 ●学力、学習状況の把握と授業改善の推進 ●学習指導要領を基に社会情勢に適応した取組の推進 ●環境教育の推進
	②豊かな人間性と健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●心の教育の推進 ●豊かな心をはぐくむ体験活動の推進 ●問題を抱える子どもたちへの適切な対応 ●「絆づくり」による不登校対策の推進 ●学校体育の充実 ●食育の推進 ●健康教育の充実
	③情熱と指導力のある教員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●人材の確保 ●信頼される教員の育成
	④信頼される学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●学校組織運営の改善 ●PTAと一体となった学校の活性化
	⑤幼児教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●幼保一元化の推進の検討 ●子育て支援機能の充実
	⑥高等学校教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●高等学校教育の推進
	⑦個に対応した教育の支援	<ul style="list-style-type: none"> ●特別支援教育の充実 ●帰国・外国人児童生徒の受入態勢の充実
2 社会全体の 教育力を高め、 子どもたちへの 支援体制を築く	①学校・家庭・地域等における連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●地域ぐるみで学校を支援する体制づくり ●民間活力を教育に活かす施策の推進 ●放課後・休日における体験・交流活動等の場づくり ●有害環境から守るための取組の推進
	②家庭における教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭の教育力向上に向けた取組の推進 ●子育て支援の機能の充実（1-⑤再掲）
	③地域における教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリア教育等による実践的教育の推進 ●地域における人材の育成
	④生涯にわたって学べる環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習社会の推進 ●生涯学習の視点からの社会教育の推進 ●生涯学習の視点からの図書館の充実 ●地域における生涯スポーツの推進
3 安全で安心な教育 環境の整備を図る	①安心・安全で快適な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●安全で安心な教育環境の基盤整備 ●学校安全システムの構築 ●放課後・休日における体験・交流活動等の場づくり（2-①再掲）
	②質の高い教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ●学校の情報化の充実 ●学校図書館の整備の推進
	③国公立学校との連携づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●連携による教育研究の振興 ●私学助成その他の総合的支援
	④教育機会の均等の保障	<ul style="list-style-type: none"> ●就学援助等による経済的支援 ●山間地における通学等の支援
	⑤少子化に対応した教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ●適正規模・配置に基づく魅力ある学校づくりの推進 ●通学区域の弾力化の研究

出典：静岡市教育委員会『静岡市教育振興基本計画』 平成22年3月

(5) 静岡市青少年育成プラン

- 『静岡市青少年育成プラン～人とのつながりを大切にし、夢に向かって生きる青少年を育む～』では、青少年の健全な成長を地域ぐるみで見守ること、地域を支える人材を育成して地域の力を強化することを基本施策に掲げています。

[静岡市青少年育成プラン～人とのつながりを大切にし、夢に向かって生きる青少年を育む～]

次代を担う青少年が夢と希望を語るができる地域社会づくりを目指し、青少年育成の基本的な方向を明確にし、具体的な施策を体系的・総合的に実施するプラン。

施策の柱（１） 成長に応じた豊かな体験や学習機会の提供

- 〈基本施策〉
- ① 命の大切さと思いやりを学ぶ体験活動を充実する
 - ② 心身を鍛え、視野を広げるスポーツ・社会体験活動や学習の機会の提供を推進する
 - ③ 規範意識を高め、コミュニケーション能力を向上させる集団体験活動を推進する
 - ④ ふるさとの自然・文化・歴史に触れ、豊かな感性を持った静岡っ子を育成する

施策の柱（２） 居場所づくりと社会参加の推進

- 〈基本施策〉
- ① 青少年の仲間づくりと活動の場を提供する
 - ② 困難を抱える青少年を支援し、自立を促す場を提供する
 - ③ 青少年の主体性を伸ばし、青少年リーダーを養成する
 - ④ 青少年の居場所づくりを支える人材の育成を充実する

施策の柱（３） 学校との連携と家庭・地域における教育力の向上

- 〈基本施策〉
- ① 子どもの成長に応じた家庭への支援の充実と家族関係の強化を図る
 - ② 学校教育における地域の人材活用を促進する
 - ③ 地域ぐるみの健全育成活動を推進する
 - ④ 地域を支える人材を育成し、地域の力を強化する

施策の柱（４） 非行防止と安全対策の推進

- 〈基本施策〉
- ① 青少年を取り巻く環境の浄化に努める
 - ② 青少年の非行・問題行動の防止に取り組む
 - ③ 情報化社会におけるモラルの向上と安全利用の推進を図る
 - ④ 青少年が安心して過ごせる安全なまちづくりを推進する

施策の柱（５） ニーズに応じた相談体制の総合的整備

- 〈基本施策〉
- ① 身近なところで、気軽に相談できる環境を整備する
 - ② 個々の課題に応じた専門的相談に対応するための体制を充実する
 - ③ 相談機関の連携強化と将来を見通した一体的な相談体制の整備を図る
 - ④ 相談に携わる人材の育成を充実する

施策の柱（６） 市民参画の推進とネットワークの強化

- 〈基本施策〉
- ① 市民・行政が協働して青少年の育成に取り組む
 - ② 関係機関・NPO等団体のネットワークの強化と形成を促進する
 - ③ 青少年の育成に関する情報を集約、発信し、市民意識の高揚を図る
 - ④ 青少年育成を効果的に推進するための組織の拡充を図る

出典：静岡市保健福祉子ども局『静岡市青少年育成プラン～人とのつながりを大切にし、夢に向かって生きる青少年を育む～』平成19年5月

1-4-2 市民ニーズの把握

(1) クリエイティブタウン関連調査・ワークショップ等によるニーズ把握

- クリエイティブタウンの開設に向けて、市が平成 21～22 年度に実施した関連調査、ワークショップ等は、以下のとおりです。
- これらの調査結果より代表的な市民ニーズを抽出し、本計画に反映させ、幅広い市民に愛され活用される施設づくりをめざします。

【平成 21～22 年度に実施した関連調査・ワークショップ等】

[A]	市民活動団体等からの意見について
	【期間】平成 21 年 12 月 13 日 【参加者】清水区で活動をしている NPO 関係者（12 人） 【方法】ワールドカフェ形式
[B]	（仮称）静岡市こどもクリエイティブランド市民ワークショップ
	【期間】平成 22 年 6 月 5 日、6 月 19 日、7 月 3 日 【参加者】静岡市民 計 22 人（各回 17 人、13 人、12 人） 【方法】ワールドカフェ形式、グループ別 KJ 会議形式、全体会議
[C]	江尻地区子ども会 子ども役員を対象としたワークショップ
	【期間】平成 22 年 8 月 3 日 【参加者】江尻地区子ども会 子ども役員 5 人 【方法】話し合い
[D]	（仮称）静岡市こどもクリエイティブランドの整備に関する市政モニターアンケート調査
	【期間】平成 22 年 8 月 9 日～22 日 【対象】市政アンケートモニターとして選考した、市内在住の 20 歳以上の 100 人 【方法】インターネットを利用したアンケート調査 【回収数】100 人
[E]	清水区子ども会連合会リーダーズを対象としたワークショップ
	【期間】平成 22 年 8 月 14 日 【対象】清水区子ども会連合会リーダーズ（子ども会 OB・OG） 12 人（中学生 2 人、高校生 4 人、大学生 2 人、社会人 4 人） 【方法】グループ別 KJ 会議形式
[F]	（仮称）こどもクリエイティブランドの整備に関する学校アンケート調査
	【期間】平成 22 年 9～10 月 【対象】・施設近隣校、住宅地、山間地から抽出した小学校（5 校）の 5・6 年生及び教員 ・本年度夏休みに各企業等での職業体験を実施した中学校（3 校）の 2 年生及び教員 【方法】集合調査法（自記式）によるアンケート調査 【回収数】児童：5 校 393 人、生徒：3 校 488 人、教員：8 校 49 人

[代表的な市民の意見と本計画への反映の方策]

●施設の基本的な考え方に関するニーズ	本施設への活かし方										
<p>[A]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主役 ・大人は見守り、素材を提供するだけで手を出さないことにより、子どもの生きる力を育てる ・多世代が集まり情報交換をする場 ・自由さ、全方向の活動、少しの勇気を発揮させてくれる場 <p>[B]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主役で、子どもの自主性や個性が育つ場 ・人との出会いやコミュニケーションを通じて心が育つ場 ・地域の特色を活かした本物体験を通じて、好きなものややりたいことを見つけることができる場 <p>[B]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な体験内容の選択肢があり、気づき、理解を深め、行動する内容 ・創造性、感性を高め、「人間としての基礎的体験」ができる内容 ・施設と地域資源（人・モノ・情報）とのつながりのある内容 <p>[D]</p> <p>問 小学生が職業やモノづくりに関する体験プログラムを受ける上で、あなたが、大事にすべきだと思うことは何ですか</p> <table border="0"> <tr> <td>子どもたちの主体性を尊重すること</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>子どもたちの創造性を伸ばすこと</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>できる限り、本物に近い体験をすること</td> <td>34%</td> </tr> <tr> <td>大人が望ましいと考える方向へ誘導できること</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>7%</td> </tr> </table> <p>[F] (教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんな体験ができればいい <ul style="list-style-type: none"> 職業の希望が持てる 地域の特色を活かした運営 本物にこだわった内容 きつい仕事を大切にできる心 幅広い情報・体験が得られる 	子どもたちの主体性を尊重すること	16%	子どもたちの創造性を伸ばすこと	39%	できる限り、本物に近い体験をすること	34%	大人が望ましいと考える方向へ誘導できること	4%	その他	7%	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの自主性を大切にす る ・大人は見守る ・地域の多様な力と連携し、 本物の体験を提供する ・多彩な活動を用意する ・活動を通じて、子どもたちの 創造力・感性を高める ・施設外とのネットワークを 形成し、地域の力を活かす ・本物の体験を提供する ・地域産業の体験が行えるよ うにする
子どもたちの主体性を尊重すること	16%										
子どもたちの創造性を伸ばすこと	39%										
できる限り、本物に近い体験をすること	34%										
大人が望ましいと考える方向へ誘導できること	4%										
その他	7%										

●体験の具体的内容に関するニーズ

[C]

- ・クッキングスタジオ：季節感のある食べ物を作る、食べ物をキッズタウンで売る
- ・みんなのひろば：静岡の名産品を展示する
- ・デジタル工房：ゲームを作る、FM しみずのスタジオを作って発信・放送する
- ・その他：昔の人の文化を学ぶ、解体祭り（エアガン、まぐろ、電化製品等）等

[D]

- ・問 小学生の仕事への関心を高めるためには、どのような展示装置や体験プログラムが必要だと思いますか（複数回答）

店屋さんごっこ（模擬通貨を使用）	61人
ロボットなど工業製品製作体験	55人
パン作り体験	53人 等

[F]

（小学生）

- ・職業体験：パティシエ、こどものまち、コック、保育士 等
- ・ものづくり体験：ゲーム、服、プラモデル、アニメ、ロボット、ネイル 等
- ・職業を学ぶ：おこづかいゲーム、マナー教室 等

（中学生）

- ・職業体験：声優、俳優・女優、カメラマン、アナウンサー、パティシエ、保育士 等
- ・ものづくり：ゲーム、アニメ、服、ネイル、料理、アクセサリ 等
- ・遊ぶ：科学コーナー、スポーツセンター、ゲームセンター、ファーストフード 等
- ・中学生職場体験学習に向けたビジネスマナーの講座
- ・地元企業を知るためのプログラム

●本施設への活かし方

- ・子どもたちに人気の仕事に関する体験を取り入れる。
- ・仕事ごっこ体験だけでなく、お金の使い方など、社会とのつながりを考えられるプログラムも用意する
- ・季節や地域性を大切にする
- ・モノの本質に迫る体験を用意する

●運営のあり方に関するニーズ

[A]

- ・使うためのルールは利用者が運営会議で話し合っ決めて
- ・地域が受け止め支えていく施設
- ・子どもたちの安全への配慮

[B]

- ・長期視点を持ち、「思い」が継続する取組
- ・子どもが主体的に参画し、子ども同士が支え合いできるしくみ
- ・街全体で、施設利用等の検討、評価を行う組織づくり

[F]

（中学生）

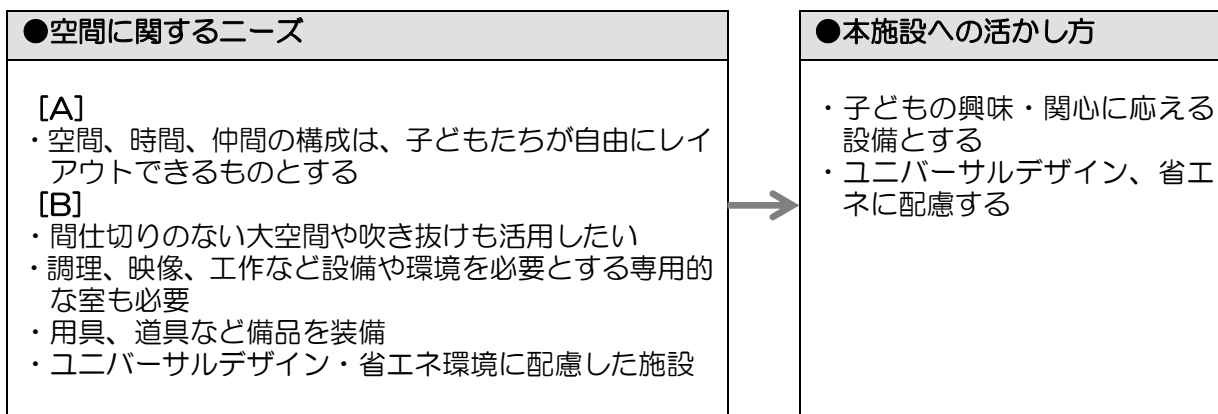
- ・キッズニアのようにする
- ・マスコットキャラクター
- ・中学・高校生が企画や運営をして、小さな子たちに楽しんでもらえるようなコーナー

（教員）

- ・多様な意見の尊重
- ・スタッフの充実

●本施設への活かし方

- ・将来の職業選択へと繋がる魅力的なプログラムを提供する
- ・グループ学習など、子どもたちが共同で取り組めるプログラムを用意する
- ・異年齢の子どもたちの交流をつくる
- ・幅広い利用者が、本施設に愛着を持って継続的に参画できる運営のしくみをつくる



(2)既存の統計等によるニーズ把握

■静岡市民 100 人からの提言

- 平成 18 年 11 月 29 日に市長あてに提出された「静岡市民 100 人からの提言」より、子どもの育成や地域活性化などにかかわる市民の意見を抽出すると、以下のように整理できます。本計画においても、これらの提言をふまえて検討を進めます。

※「静岡市民 100 人からの提言」

市民が活動の主体となってまちづくりを行い、活力ある安全安心な静岡市づくりに発展していくために、「市民に何ができるのか」について提言したものを。

[静岡市民 100 人からの提言 平成 18 年]

グループ	市民からの提言
【総論】	<ul style="list-style-type: none"> ■市の財産をもっと有効に使う。施設利用率を上げる ・若年層、学生、児童の利用率を上げる ・民間活力を導入して施設行事などの活性化を図る
【健康・福祉】	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の課題 ・町内会を利用して子どもの居場所を作る 他 ■世代間交流の促進 ・核家族の子どもたちと中高年の心のふれあい 他
【文化・学習】	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢者の知識、知恵を伝承する場をつくる ・こどもと高齢者、大人の交流の場をつくり、コミュニケーションを図るとともに、知識や知恵の伝承の場を提供する

[本施設への活かし方]

- 子どもたちはもとより、世代間交流をはかり、地域全体で子どもたちを見守り育む活動を展開します。
- 地域の人びとが有する知恵や技術を子どもたちに伝えられるよう、場としくみづくりを行います。
- 民間活力を導入した、柔軟な施設運営を行います。

(3)市民の声

- 静岡市ホームページに寄せられた市民の声には、子ども向け職業体験施設の設置や清水区への児童館設置を求める声、清水商店街活性化の必要性や、ホビーのまち静岡のアピールなど、本施設がめざす理念や活動の根幹に関連する内容が見られます。こうした市民の声からの市民ニーズの把握にも十分留意し、本計画の検討を進めます。

[市民の声と市の対応・回答]

日付	市民の声	対応・回答等
2009-05-29	子どもの職業体験施設を誘致してください。	子どもたちが遊びながら創造的な活動を行ったり、クリエイター的な職業体験ができるような施設の整備を検討しています。
2010-06-10	清水区に児童館を設けてください。	旧清水市の区域には児童館がないことから、従来より設置を希望する声が寄せられているところです。平成 22 年には、「(仮称)清水区西部地域児童館」と児童館機能を持つ「(仮称)こどもクリエイティブランド」の2箇所の設計を実施します。
2010-06-18	清水商店街を活性化するための施策をお願いします。	JR 清水駅周辺から日の出地区周辺にかけてのまちなか一帯については、「清水地区中心市街地活性化基本計画」に基づき、清水ならではの地域資源を活かしながら、官民一体となって中心市街地全体の活性化に取り組んでいます。
2010-08-19	静岡市をプラモデルのまちとして、全国にアピールしてください。	静岡市はプラモデルの産地として全国トップを誇るまちであり、ホビーを一つの柱にシティプロモーションを推進するため、市民と連携協力して「ホビーのまち静岡推進事業」に取り組んでおります。静岡市と業界の発展につなげていくため、関係業界や市民の方とともに、「ホビーのまち静岡」をいっそう推進させていくことが重要だと考えています。

[本施設への活かし方]

- 子どもたちが集まれる居場所、職業・ものづくり体験のできる施設として整備します。
- 地域産業を最大限活用して、静岡市や清水地区中心市街地の活性化につなげます。

(4)基本構想パブリックコメント

- 平成 21 年度に策定された（仮称）静岡市こどもクリエイティブブランド基本構想に対して、市民意見を募集しました。
- 主な意見として、商店街や地元企業、周辺施設との連携の必要性や、キャリア教育という視点からの中学・高校生を対象とした活動の充実などがありました。これらの意見やコメントについては、本計画のなかで検討を行い、反映させるものとします。

[パブリックコメントの実施概要]

募集期間：平成 22 年 2 月 15 日～平成 22 年 3 月 16 日

募集方法：市ホームページからの電子申請、担当課への持参、郵送、FAX

募集結果：意見件数 8 件（電子申請 4 件、郵送 1 件、FAX 3 件）

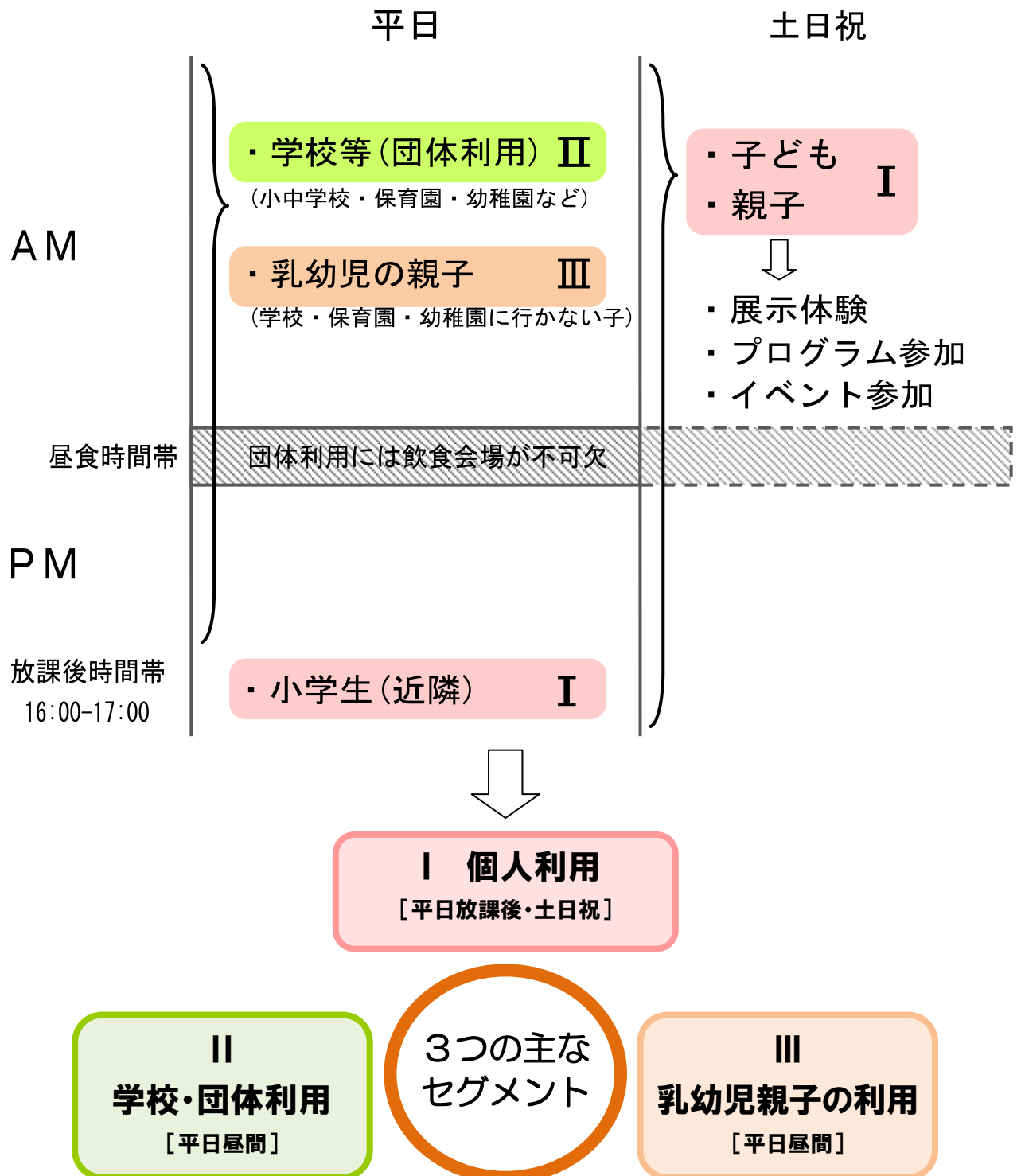
[主な意見の概要及び意見に対する静岡市の考え方]

掲載頁、項目	パブリックコメントの主な内容	市の考え方
(全体)	地域の商店街、工場などの協力を得ながら「仕事ごっこ」ができるような、開かれた施設にしてほしい。	運営計画において、地域や市民団体、商店街との連携などを検討します。
P11、12 6 利用対象者についての考え方 (1)基本的な考え方	キャリア教育の要素が強いので、中学・高校生を対象の中心に据えてはどうか。	低年齢層の子どもたちに対する疑似職業体験や創作活動を通じて、仕事や共同作業、社会参加の意義への気づき、きっかけづくりの場を提供したいと考えています。そのきっかけづくりを、中学・高校生へ拡大していきます。
P16 空間の展開と利用の考え方からの機能・配置 ①子どもたちが一緒に楽しくものづくりと仕事体験する遊び・学びの空間	参加型の方向性は静岡科学館る・く・ると同様なので、る・く・ると連携等を図っていけば、発展が期待できるのではないかと。 子どもとシルバー世代との交流には、何か共通の話題が必要。世代を超えて楽しめる趣味を通じて集まる、「〇〇好き集まれ！」の日を設けるのはどうか。	既存及び周辺の関連施設との連携を検討していきます。 子どもを中心とした多世代交流を図るためには、世代間に共通した話題等は重要です。運営計画では、世代交流に関する事業プログラムを検討していきます。

1-5 利用促進の方向性

1-5-1 利用者類型によるセグメンテーション

- 平日・土・日・祝日、時間帯別に想定される利用者層は以下の4つに整理できます。



※セグメントとは・・・ニーズ、行動などが共通・類似した顧客の集団に市場を分割し、その中から標的となる市場を選定して、特徴に応じた対応をとるマーケティングの手法。

1-5-2 セグメント別利用促進の方向性

- この3つのセグメントごとに、具体的な利用イメージと具体的な利用促進の方向性を設定します。

セグメントⅠ 個人利用〔平日放課後・土・日・祝日〕

- 最も基本的なセグメントであり、こどもクリエイティブタウンの展示施設や体験プログラム等を検討する際に、最も意識すべき対象です。
- 子どものみでの利用と、親子での利用の2類型が想定されます。
- 平日の昼間については、乳幼児を除く子どもは小学校、保育園、幼稚園に通っているため、来館しないものと判断できます。
- 子どもたちの放課後の利用は、児童館同様 17 時帰宅が望まれることから、利用できる時間が限られます。そのため、主な利用は近隣の小学生に限定されますが、その場合、対象者は1 km 圏内の小学校2校の生徒約 700 人と、少ないことが想定されます。
- 持ち込み飲食スペースは、個人利用者にも人気であり、設置が望まれます（「静岡科学館る・く・る」でも土日は満席）。



利用促進の方向性

- 利用曜日・時間帯が限られているため、マンパワーを集中して投入し、スタッフ等の人的な対応を伴う体験プログラムやイベント等を実施します。
- 他のセグメントでの利用者が、このセグメントでの利用に移行するような仕掛けを設けます。

セグメントⅡ

学校等（幼稚園・保育園を含む）・団体利用〔平日昼間〕

- 学校の特別活動（社会見学、体験学習、遠足など）、社会科・生活科などの教科の一環としての団体利用が想定されます。閑散時間帯に多人数の利用が見込めることから、できる限り、確保すべきセグメントです。
- 学校の特徴やニーズに合わせたプログラムが必要となります。具体的には、多人数（最大140人程度）であること、個々の子どもの興味はもとより、学校の教育方針や授業のカリキュラムに合ったプログラムを用意すること、他校の児童・生徒や地域住民との交流の機会にもなることが望まれます。
- 市内のみならず、市外の学校の利用も考えられます。
- ゆとり教育の見直しによる授業時間数の確保のため、学校ごとの利用頻度は減少傾向にあるものと考えられます。
- 修学旅行時期などには、利用が集中する可能性があります。
- 昼食（持参したお弁当）ができるスペースの確保が、このセグメントの利用促進において必要な条件となります。
- 特別支援学校の児童・生徒は、多様な経験を求めているため、ニーズが高いものと想定されます。



利用促進の方向性

- 各校の教育方針やスケジュールとの整合性を図るため、教育委員会や学校との連携を進めます。
- 多人数利用については、多人数に対応した体験プログラムのほか、事前・事後学習や説明などに必要な十分なスペースを確保します。また、昼食をとる場所や団体バスの乗降場所の確保も必要です。
- 特別支援学校の受け入れのため、障害者にも対応できる設備やプログラムづくりを進めます。

セグメントⅢ 乳幼児親子の利用〔平日昼間〕

- 児童館等の類似施設の傾向（※2.3）をみると、入園前の乳幼児（3才未満）の親子の来館傾向が高いことがわかります。乳幼児親子は本施設においても、高いニーズを持った利用者であり、閑散時間帯の利用が見込めます。
- 利用者ニーズとしては、子どもを安全に遊ばせることができること、親同士の交流が促進されること、できれば子どもの相手から解放される場となること（子育て支援センターのような利用）が望まれており、施設の本来目的である「仕事ごっこ体験・モノづくり体験」とは少し異なる意図や思いを持って利用することが考えられるため、本来目的との連結、誘導について工夫が必要です。

※2 静岡市児童館の利用者（H21）：

乳幼児親子 46.7%、小学生 41.4%、中学生 4.1%、
高校生 0.8%、一般 4.2%、その他 2.8%

※3 静岡科学館る・く・る、こどもの城（東京都渋谷区）の両館ともに、オープン後しばらくして乳幼児対応コーナーを仮設的に設置。両館の担当者は「平日の昼間は学校の団体利用以外は乳幼児親子しか来ない」とコメント。



利用促進の方向性

- 乳幼児が対象となるため、フリースペースとしての遊び場を整備します。
- このセグメントに対してイベントやプログラムを開催する場合は、予約制などの固定的なものではなく、出入りや参加の自由度が高いものとしします。
- 保護者が必ず同伴するものとししますが、常に一緒に参加・体験するわけではないため、保護者にとっても過ごしやすい設備を整備します。
- この時間帯では、親子を対象としたプログラムの実施も考えられます。